

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	兵庫県・明石市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	明石市の文化遺産総合活用推進事業	【計画の改善時期】 平成 30年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>明石市文化芸術創生条例（平成21年）を踏まえ、次の事業を実施する。</p> <p>(1) 地域にある身近な文化財を活用したウォーキングや文化遺産をまとめた成果物の配布などによる情報発信</p> <p>(2) 史跡明石城と関連文化財群を広く紹介する普及啓発等</p> <p>(3) 市内に現存する地域固有の伝統芸能及び民俗芸能に関する用具の修繕、後継者育成等</p> <p>また、本事業に参画する文化財保存団体や伝統文化保護団体等と連携し、当事業を遂行することにより、市民の伝統文化等に対する意識の向上及び観光客の増加につなげていく。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、明石市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <p>主な担当課、役割 文化・スポーツ室文化振興課：伝統文化の後継者育成に関する指導及び文化財の保護・啓発等に関する指導等。</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施。 明石市の文化遺産総合活用推進事業実行委員会（会長：大村敬通） （「⑤実施計画の概要」における全ての事業を実施。） 構成メンバー（明石市文化財審議会委員、明石市史編さん委員、明石観光協会前会長、明石市文化団体連合会役員）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 103,254 千円	平成31年度申請額： 2,857 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>1. 想定される効果</p> <p>(1) 文化財の普及啓発を市民団体が主体的に担い推進することで、より緻密で効果的な運用が期待できる。</p> <p>(2) 散逸の危機にある多様で身近な文化遺産を地域ぐるみで保存し後世に継承できることが期待できる。</p> <p>(3) 市民への文化財等に対する意識の向上、保全意識の喚起が期待できる。</p> <p>(4) 市外からの観光客の増加が期待できる。</p> <p>2. 効果の測定方法</p> <p>(1) 各事業の参加者へアンケート等を実施するとともに、事業実施団体から事業結果・効果について報告を受け、効果を測る。</p> <p>(2) 市関係部局が実施する観光・文化芸術及び文化財に関する統計の分析を行う。</p>			

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）	
事業概要：	1. 明石市芸術祭（市単独事業） 民謡・民舞、邦楽、茶会、いけばななどを、体験、鑑賞していただく事業を実施し、市民に伝統文化に触れる機会を提供する。
事業概要：	2. 明石薪能の開催（市単独事業） 伝統芸能を継承するとともに、市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより伝統文化に親しむ機会の拡充を図る。
事業概要：	3. 街角イベント推進事業の実施（市単独事業） 音楽の活動をするグループや個人に発表の場を提供するとともに、市民が身近な場所で音楽に触れ楽しむ機会を提供する。また、賑わいのあるまちづくりにも資する。
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
市内の歴史文化の特性を把握し、平成31年度より3ヶ年計画で、庁内の観光や政策、都市計画の部署と連携して「文化財保存活用地域計画」を策定する予定である。	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	明石市市民生活局 文化・スポーツ室 文化振興課 文化財係

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	明石城櫓等、文化遺産施設への来場者数				関連事業: ⑤	
目標値 1 :	【現状値】 平成 28 年度 5,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 12,440 人					
設定根拠 1 :	平成27年度明石観光入込客数の伸び率1.2倍を参考として、毎年度伸び率1.2倍と設定					
進捗状況 1 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
6,200 人	7,448 人	人	人	人	人	
16%	33%					
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	地域住民意識調査の「地域に愛着を感じる」の割合				関連事業: ①~④	
目標値 2 :	【現状値】 平成 28 年度 55 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 58 %					
設定根拠 2 :	平成28年度までの毎年度平均伸び率0.3%に対し、2倍の0.6%を設定					
進捗状況 2 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
56.6 %	57.1 %	%	%	%	%	
53%	70%					
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	実施計画団体の保存会の会員数				関連事業: ⑦~⑪	
目標値 3 :	【現状値】 平成 28 年度 500 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 1,000 人					
設定根拠 3 :	市内10団体の年間増平均が10人であることから設定					
進捗状況 3 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
600 人	700 人	人	人	人	人	
20%	40%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	「明石の文化遺産」発信・活用事業					実施団体：	ヘリテージ明石				
事業区分：	情報発信					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	地域住民や学生たちと協働し、建造物や明石市内にある旧高砂道沿いに残る古いまちなみを形成する資源を掲載した文化遺産のマップを作成し、地域内外に配布し、文化遺産の発信に努める。この情報発信により、文化遺産を再認識し維持保全や地域の活性化を図る。また地域外の方に建物・まちなみを地域固有の資源と組み合わせて発信することにより、地域の特徴や良さをより認識してもらえると考える。またヘリテージマネージャーを中心にまち歩きを行い、ガイド講師の育成も図る。										
評価指標区分：	・ホームページ閲覧数（PV数）					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	ひょうごヘリテージ機構のホームページに調査内容等を掲載、その閲覧数										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 1,000 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5,000 回										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
2,000 回	2,600 回	回	回	回	回						
25%	40%										
事業②：	江井島の歴史や遺跡を巡るボランティアガイド養成講座					実施団体：	江井島まちづくり協議会				
事業区分：	人材育成					事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	①江井島の歴史や史跡を知る（学識者による講義・現地研修とガイド体験）②江井島の農業・漁業・酒造りを知る（歴史や伝統的な生活文化を学ぶため関係者による講義・現地見学と研修）③ワークショップ（ガイドの内容やコース等をまとめる）										
評価指標区分：	・ボランティアガイド利用者数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	ボランティアガイドを利用し、江井島の歴史等を学ぶ人数										
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 50 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 80 人										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
人	50 人	人	人	人	人						
	0%										
事業③：	江井島の昔のはなしを聞き記録する					実施団体：	江井島まちづくり協議会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	江井島の昔の暮らしや慣習などを聞く会を年3回開催し、内容を記録する。各回80歳以上の住民3名程度から聞き取る。聞き取りの内容は70年ほど前の仕事、村の様子、学校、遊び、災害、行事、近隣の助け合いについて等を予定している。話し手の高齢者にとっては地域に貢献している意識が芽生え、参加者は地域の昔の暮らしや歴史を知ることによって愛着や誇りにつながる。また、ホームページに掲載することで情報を共有することができる。										
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	江井島地域の文化遺産継承に関わる、協賛企業団体数										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5 団体										
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
2 団体	3 団体	団体	団体	団体	団体						
25%	50%										

事業④：	文化遺産にふれあう「まち歩き探検」	実施団体：	江井島まちづくり協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	平成27年に作成した「遺跡マップ」を利用して、多世代の地域住民と連携し、文化遺産にふれあう「まち歩き探検」を実施する。また事業者等の協力を得て、連携して取り組む。（コース名：江井島ぐるっと巡る（寺社12ヶ所））					
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	江井島地域の文化遺産継承に関わる協賛企業団体数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5 団体					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2 団体	4 団体	団体	団体	団体	団体	
25%	75%					
事業⑤：	明石城等文化遺産を活かした普及啓発事業	実施団体：	明石葵会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	明石城とそれを取り巻く文化遺産に興味・関心を持ってもらうよう、専門家や研究者と連携し、様々な角度からその実態を明らかにするシンポジウムをあかし市民広場で開催し、普及啓発に努める。さらに、協賛企業を広げ、文化遺産の保全環境の整備、次世代への継承を行っていく。					
評価指標区分：	・その他			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	明石城への年間入場者数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 5,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 12,440 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
6,200 人	7,448 人	人	人	人	人	
16%	33%					
事業⑥：	御厨神社秋季例大祭に使用する布団太鼓屋台の修繕及び後継者養成事業	実施団体：	原の町屋台保存会			
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	布団太鼓屋台の担い手が年々減少している。地域の住民に伝統として受け継がれてきた祭りを身近に感じてもらうためにも、子どもたちに祭り囃子の指導を実施し伝統行事の活性化につなげる。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	原の町屋台保存会への新規入会者数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 70 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	70 人	人	人	人	人	
	0%					

事業⑦：	御厨神社秋季例大祭に使用する布団太鼓屋台の修繕及び後継者養成事業	実施団体：	原の町屋台保存会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	御厨神社秋季例大祭に使用する布団太鼓の担ぎ棒が経年劣化により割れが生じている。また、屋根部分の天幕も経年劣化により傷み端がはがれやすくなっている。祭りに使用する際に安全性に危惧があるため、交換修理をし、屋台の保存継承を行う。また、子どもたちに祭り囃子の指導を実施し伝統行事の活性化につなげる。布団太鼓を修理し安全な巡行を図るとともに、安心感を持って伝統行事に参加してもらい、愛着、保護意欲の育成に繋げる。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	原の町屋台保存会への新規入会者数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 70 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	70 人	人	人	人	人	
	0%					
事業⑧：	大蔵谷西之組用具修繕事業	実施団体：	稲爪神社神楽獅子舞 大蔵谷西之組			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	稲爪神社の秋季例大祭に奉納される神楽獅子舞で使用する獅子頭は制作より十年以上がたち、表面の色が剥げ、陥没や割れなどが見られる。大事に取り扱ってきたが、獅子舞の激しい動きに耐えられなくなってきたため、修復を行う。まただんじり用提灯についても、作成より20年以上が経ち汚れや破れ等が目立つ。修復不可能のため新調する。会員の獅子舞の芸の所得の指導をし、太鼓の演奏技術の継承・向上も図る他、地域の小学生の会員獲得のために、小学校で行われる地域のイベント等で技芸を披露し参加を呼び掛けるなどの次世代継承に向けた活動も実施する。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組への新規入会者数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 3 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
10 人	18 人	人	人	人	人	
41%	88%					
事業⑨：	八木住吉神社秋祭りに使用する用具の修繕	実施団体：	西八木自治会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	経年劣化により子ども屋台の台車が摩耗、木部分が損傷し、また布団太鼓の布団張り部分の色褪せが目立つようになった。現在、八木住吉神社秋祭りでは神輿1基、大人屋台2基、子ども屋台2基が練っている。大人屋台の担ぎ手が減っている現状では子ども屋台の担ぎ手及び、育成が必要である。それには、老朽化している子ども屋台の修繕が急務である。修繕を行うことにより、子どもたちが子供屋台を安全に担いでもらえるとともに、仲間意識の高揚を図る。子どもたちの姿を見てもらい、地域住民に対してもお祭りへの関心を深め、担ぎ手の補充を図る。					
評価指標区分：	・保存会への新規入会者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	西八木祭保存会への新規入会者数					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 90 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 150 人					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
110 人	132 人	人	人	人	人	
33%	70%					

事業⑩：	林神社秋祭りに使用する神輿の修理	実施団体：	ファミリーハイツ明石自治会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	神輿は入念に点検し、祭後は大切に保管するなど丁寧に扱ってきた。しかし、経年劣化により屋根飾り金具が損傷し金具が削れたり塗装が剥げてきている。損傷した屋根飾り金具を修繕し、見栄えが良くなった神輿で巡行することで祭りへの関心や意欲向上につなげ、祭りの継承を図る。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	祭礼参加者の増加 (ファミリー住民、地域住民)					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 188 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 226 人					
進捗状況：	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
167 人	146 人	人	人	人	人	
-55%	-111%					
事業⑪：	春・秋祭り・正月祈願に使用する用具の修繕及び公開事業	実施団体：	松陰農会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	松陰地区での春季・秋季の伝統的な祭礼で使用する、獅子舞の油車・子ども太鼓の縦・横棒が経年劣化で傷んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理をする。また修理現場の一般公開を実施する。行事の歴史、生い立ちや経過を学習することにもなり、郷土や行事への愛着・継承意欲の育成を図る。また太鼓、獅子技能取得者により、保存会員40名程への技芸の継承も行うとともに、保存会員、男女を問わず乗り子を募集し、伝統行事の継承、活性化につなげる。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化 (維持)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	松陰農会の現会員のうち、高齢の会員が脱退した際にも会員数が減少しないように入会者を増やし、また維持する。					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 156 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 160 人					
進捗状況：	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
156 人	157 人	人	人	人	人	
0%	25%					